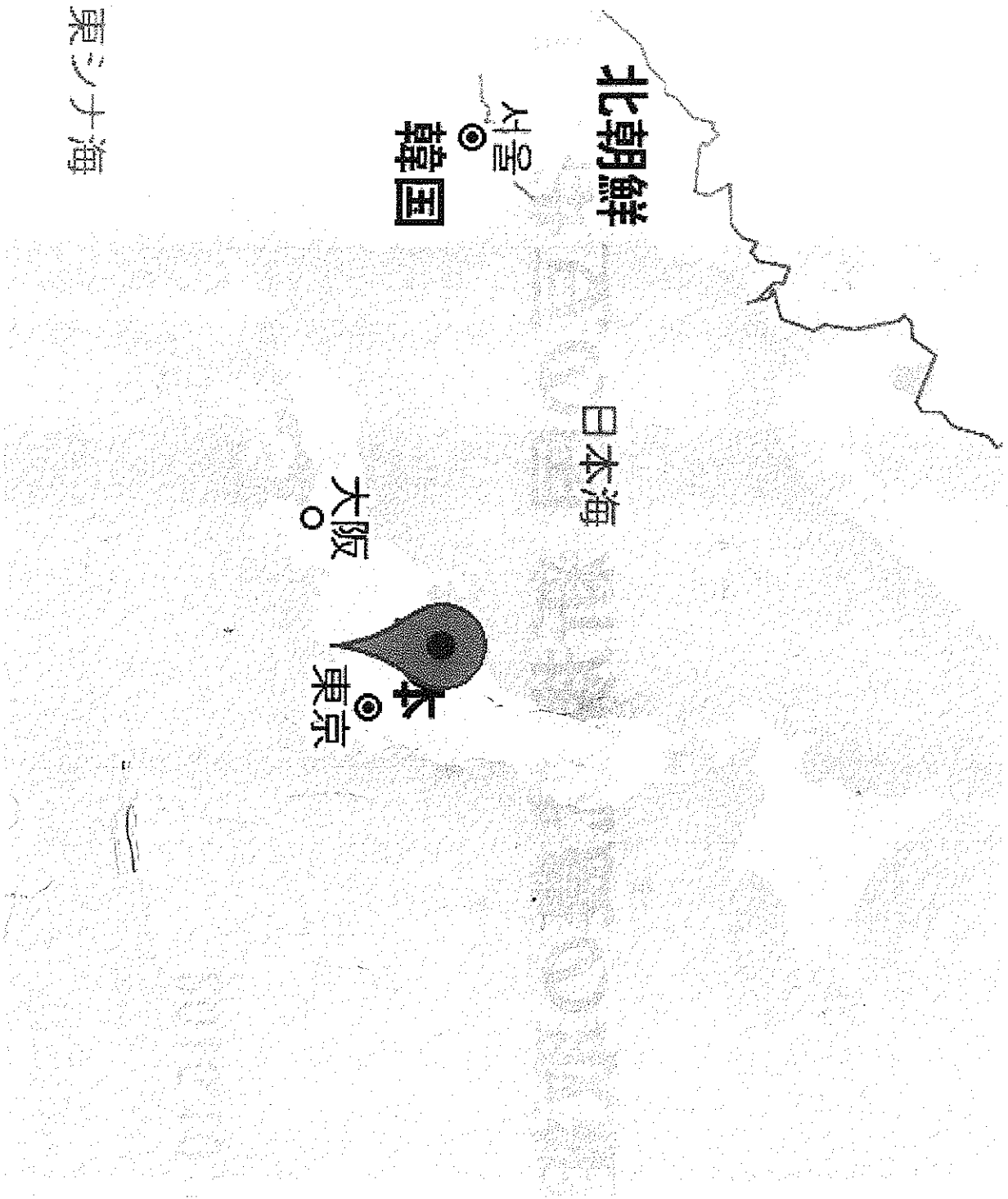


2015.10.21

# JA伊豆の国 新規就農の取組

# 静岡県の位置図



東シナ海

北朝鮮

서울

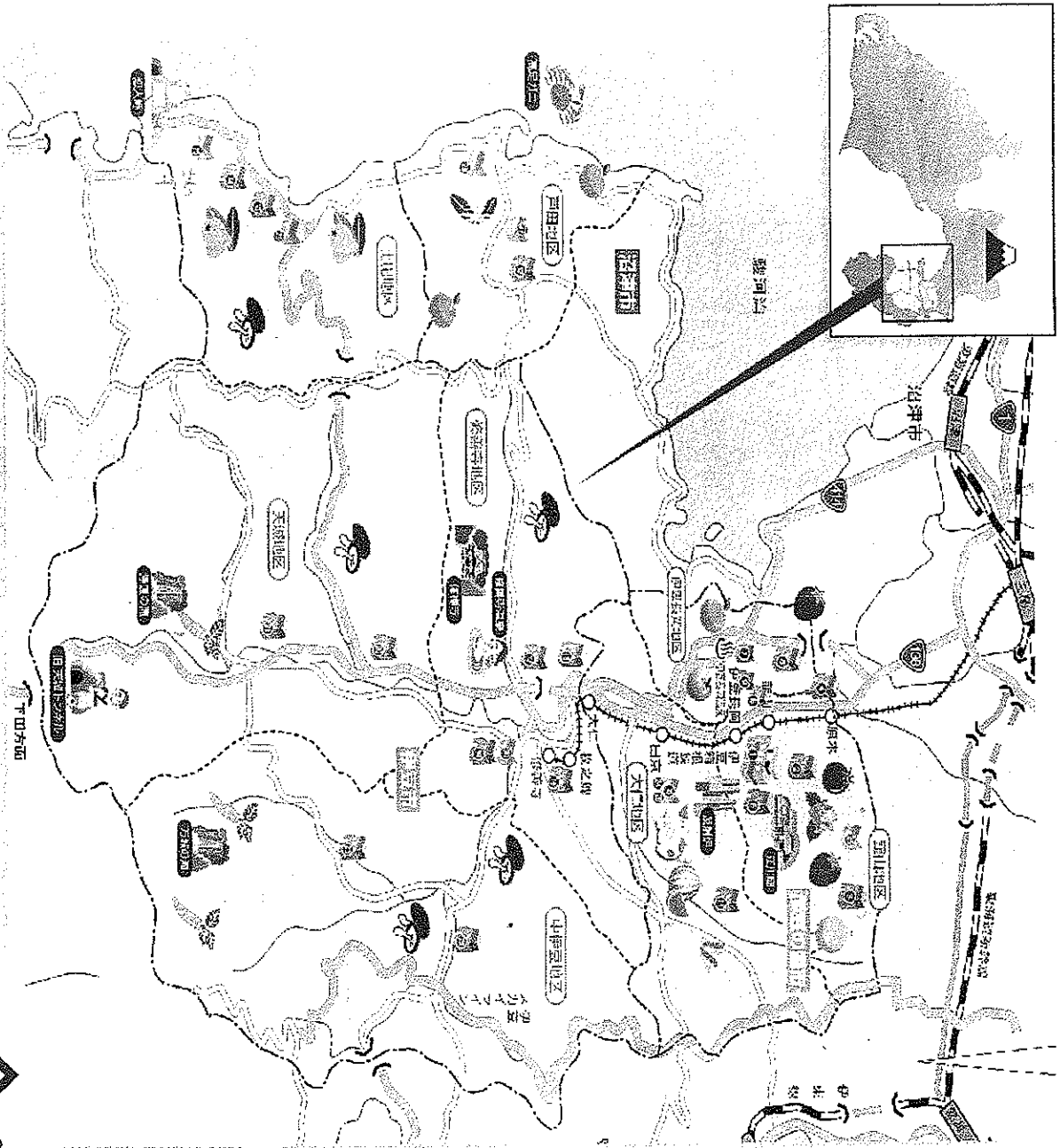
韓国

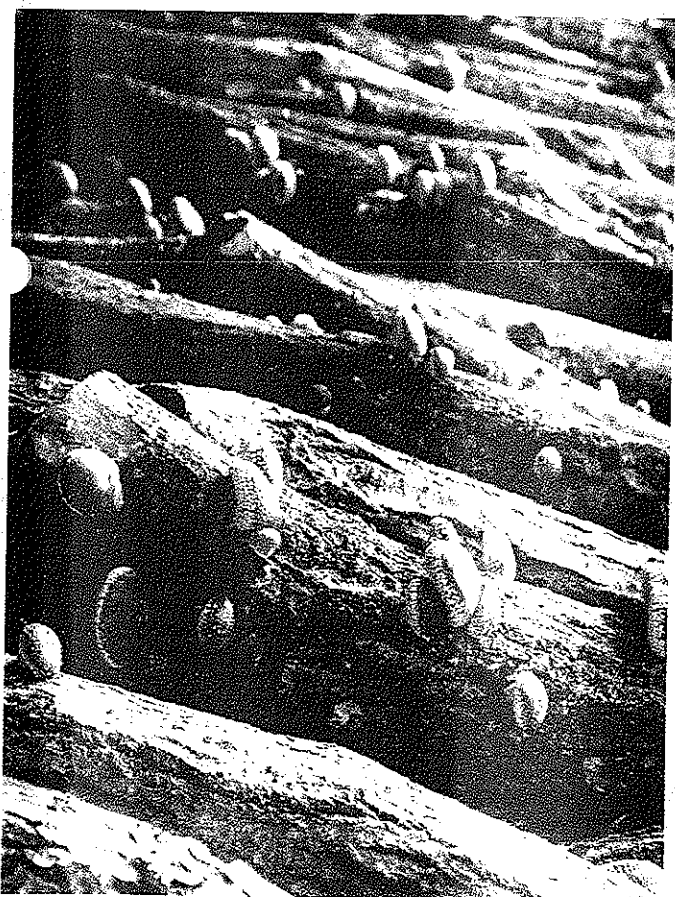
日本海

大阪

東京

# JA伊豆の国の位置図





# JA伊豆の国の概要 (2014年度)

本店所在地 静岡県伊豆の国市南條800番地

設立 1998年9月1日

組合員数 15,734人

役員数 29人 ・ 職員数 347人

財金 1,818億円 ・ 貸出金 457億円

長期貸付保有高 5,145億円

販売品取扱高 48億円

イチャゴ 15億円

果菜 9億円

ワサビ 9億円

畜産 5億円

野菜 5億円

きのこ 2億円

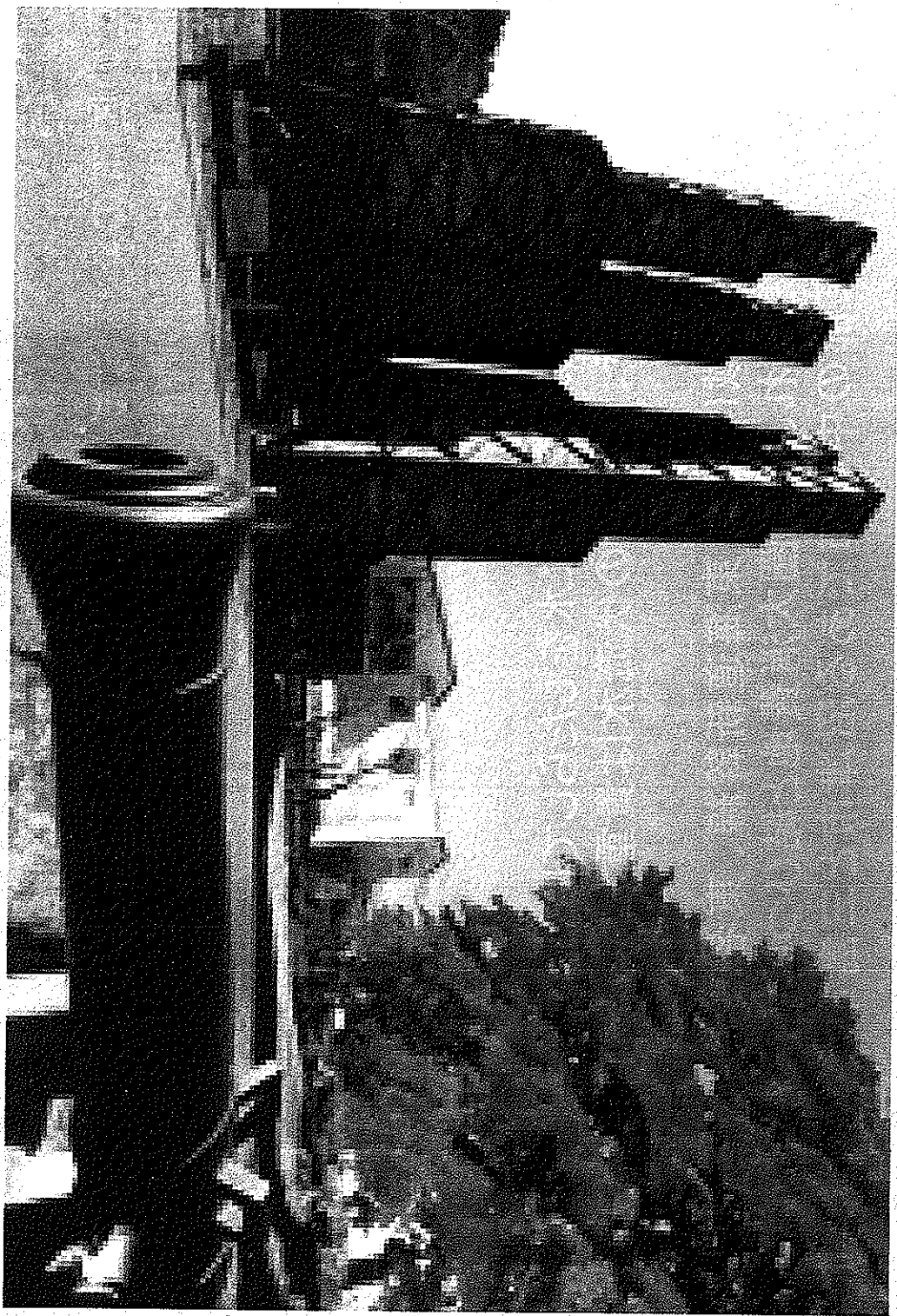
その他 3億円

購入品取扱高 25億円

## 伊豆の国市の概要

伊豆の国市は2005年に旧伊豆長岡町、韮山町、大仁町が合併してできた。伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置する。東は箱根山系の連山に、西は城山や葛城山などの山々に囲まれ、豊かな自然環境を保っている。主要作物はイチゴ、果菜など。2006年11月1日に京都府長岡京市と姉妹都市提携。2015年10月1日現在で人口49,825人、面積は94.71平方キロメートル。

# 世界文化遺産 葦山反射炉 ～明治日本の産業革命遺産登録～



## 経営環境の特徴

### (1) 気 象

伊豆の国市の年平均気温は15.6℃、年平均降水量は1800～1900mm、年平均日照時間は1800～1900時間。温暖湿潤な太平洋側気候で、冬場を中心に日照時間にも恵まれている。

### (2) 土 壌

伊豆の国市に広がる田方平野の土壌は、天城山から流れる狩野川がもたらす肥沃な黒ボク土壌の沖積土。塩基置換容量が25～30meq/100gと大きく、地力の高い恵まれた土壌である。

### (3) 水 利

南北に流れる狩野川がきれいな水をもたらしている。10メートルほど掘ると地下水を汲み上げることができ、狩野川の伏流水は貴重な地下資源となっている。

### (4) 市 場

東京からは100km圏域にあり、東海道新幹線、東名高速道路を利用して2時間弱と交通の利便性に恵まれ、首都圏大消費地と結びついている。

また、北には県東部の中核市である沼津市と三島市が隣接し、地場消費も活発である。

静岡県内の市場および東京都、神奈川県、千葉県、長野県を中心とした 県外市場あわせて15カ所と直売所などに販売している。



## JA伊豆の国の新規就農者支援への取組み

- ① 就農計画作成支援・・・目標年所得300万円
- ② 就農支援資金計画支援と県との対応
- ③ 栽培農地の確保・斡旋・・・借地料10万円/10a
- ④ 農地利用集積円滑化事業による借地契約の締結
- ⑤ 労働力確保のための無料職業紹介所による  
農作業パートナー者の紹介
- ⑥ 作物を栽培するための営農指導・燃料の供給
- ⑦ 生産物を出荷するための資材の供給
- ⑧ 出荷物の販売
- ⑨ 「ニューフーマー地域連絡会」を2002年から開催  
現実に抱える問題点を解決するために関係機関も  
含めて様々な角度から検討。

## (連絡会の構成)

ニューファーマー (研修中も含む)、研修受入農家、  
県農業振興室、県青年農業者等育成センター、東部農  
林事務所、伊豆の国市、伊豆市、JA伊豆の国 (常勤  
理事、営農事業部)

⑩がんばる新農業人支援事業の枠にもれた方で就農意欲  
があると認められた方については伊豆の国市の「新規就  
農者養成実践研修事業」で研修。  
年間60万円・・・ただし、現在は県の枠が余っている  
ため予算枠なし

# ニューファーマー地域連絡会



# 1. 新規就農者成功の条件

1. 新規就農者
2. 土地
3. 資金
4. 作目の選定(苺・ミニトマト)
5. 技術
6. 地域受入連絡会
7. 無料職業紹介所の開設
8. 経営状況の開示および就農計画書の作成
9. 販売

# ● ● 研修受入農家

静岡県認定 農業経営士

(技術、経営力のある方)

● 毎2名

● ミニトマト1名

## 1. 新規就農者

静岡県では「がんばる新農業人支援事業」として全国各地から新規就農希望者を募集し、受入れ農家の現地説明見学会を行う。その後、面接選考会を行う。

この選考会での受入れ条件は

- ① 健康で就農への強い意欲と旺盛な研究心があること
- ② ある程度の自己資金があること
- ③ 夫婦で協力・就農し家族の理解が得られる者
- ④ 研修先の近くに就農できる者
- ⑤ 経営能力のある者
- ⑥ おおむね40歳以下である者(45歳位まで)

## 静岡県ががんばる農業人支援事業

農業の新たな担い手の育成・確保を図るため地域受入連絡会が新規就農希望者を研修受入地域での就農に向け、1年間の実践研修や就農準備等の総合的支援を実施し、地域の担い手を育成する。(地域受け入れ型)

## 2. 土地

- ① 新規就農者が土地を求め使用するのには本人自身では難しい。
- ② 現在は受入れ農家の信用によるところが大きい。
- ③ 借地は水田であるため水稻の収入金額10a当り10万円で借りている。
- ④ 手続きについては受入れ農家が12年間の契約期間でハウスを建てることを条件に地主から賃貸借を内定し、就農認定者となった後、JAが地主より借り受け、転貸により新規就農者に利用権を設定のため農業委員会に申請。農地利用集積計画を策定し施設を建設。



### 3. 資金

①新規就農者は生活が安定しなければ農業経営は継続できない。夫婦2人で子供が1人の普通の生活費を400～500万円とすれば同額の農業所得が必要。施設園芸の所得率は約30%。ミニトマトは20aの経営で、毎は30aの経営で可能。⇒400～500万円の農業所得。

#### ②資金

就農支援資金(無利子・国の制度資金 3,700万円上限)

経営体育成事業交付金(国) 300万円(助成)

青年就農給付金(国) 150万円(助成)

JAニューファーマー資金500万円(民間 有利子)等で対応できるが、1,000万円位の自己資金があれば後の経営はスムーズ。資金の借入への対応はJAが就農計画の策定から相談に乗っている。

# 苺・ミニトマト平均経営面積

- 苺

全生産者平均経営面積 20a

NF平均経営面積 28a

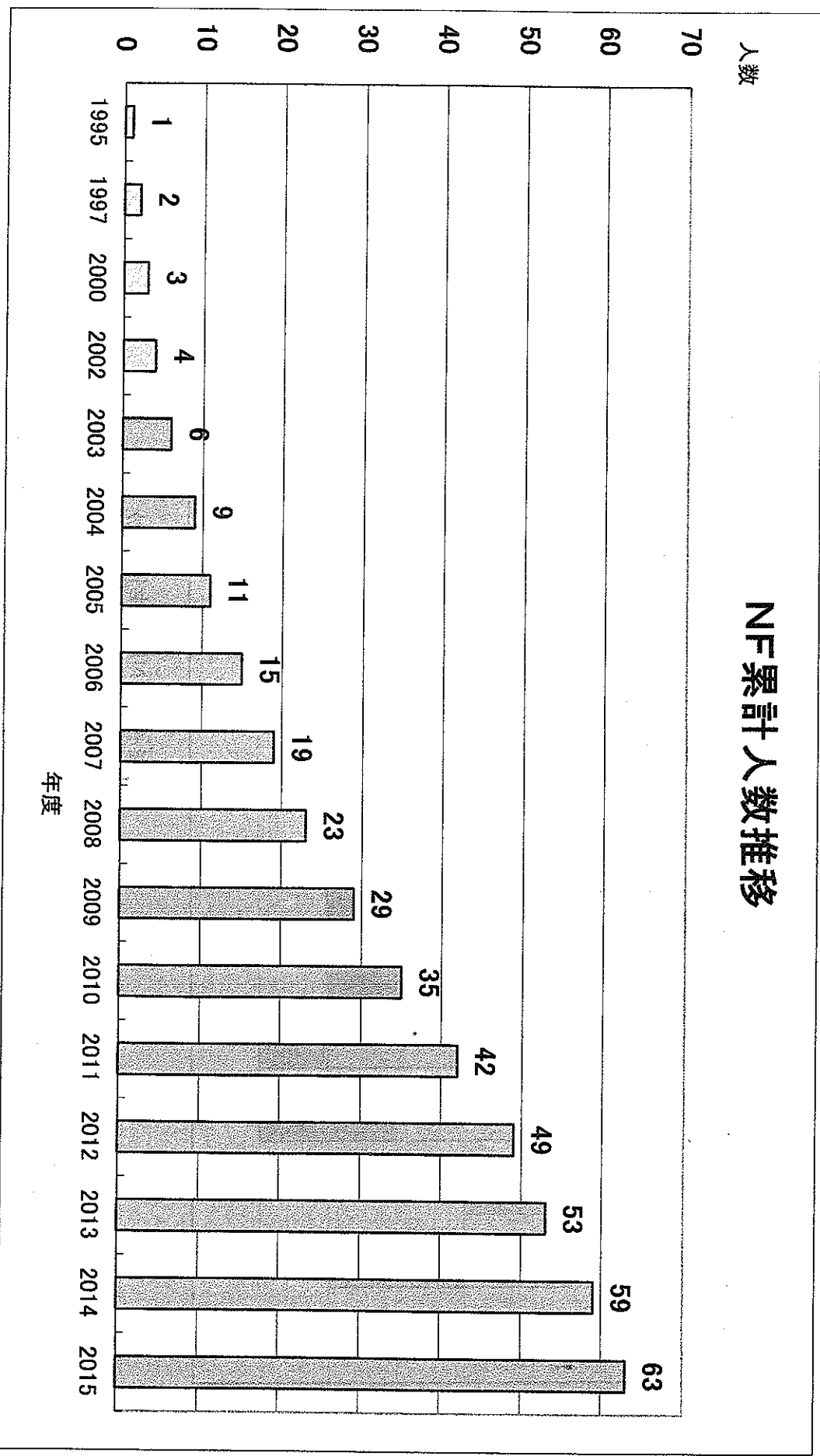
- ミニトマト

全生産者平均経営面積 25a

NF平均経営面積 28a

# 新規就農者の推移

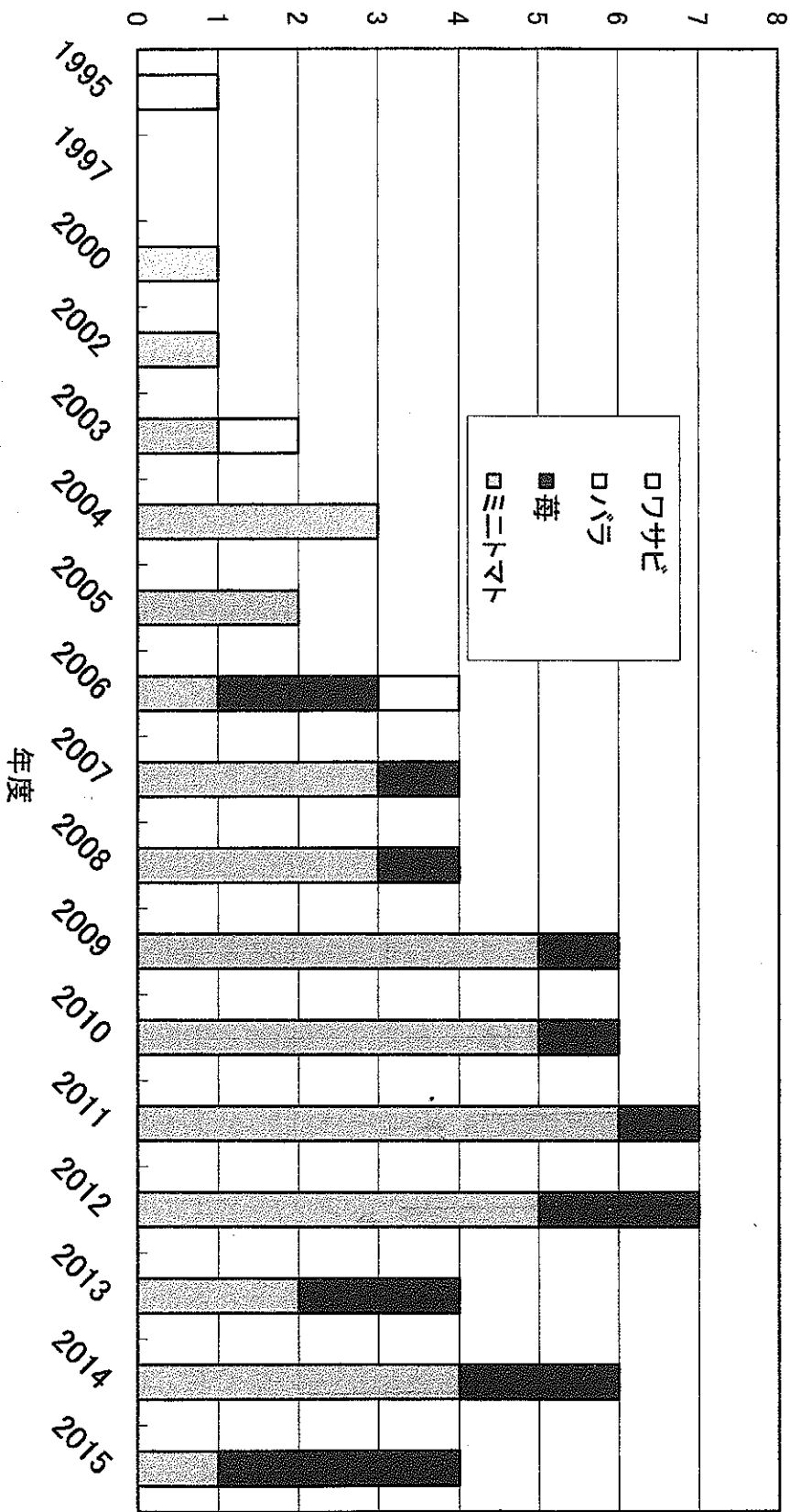
## NF累計人数推移



# 新規就農者の作物別年度別推移

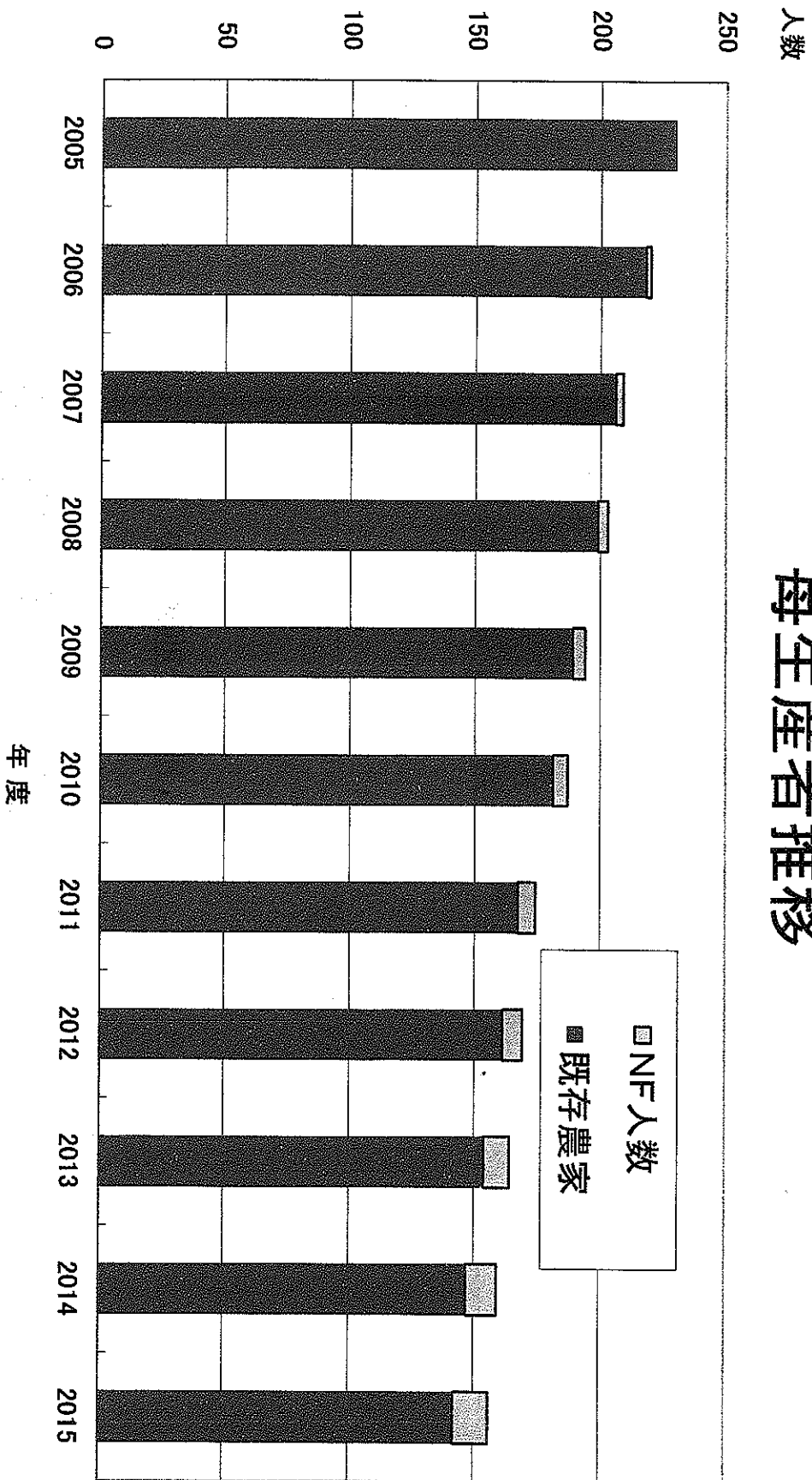
人数

作物別年度別NF就農者数



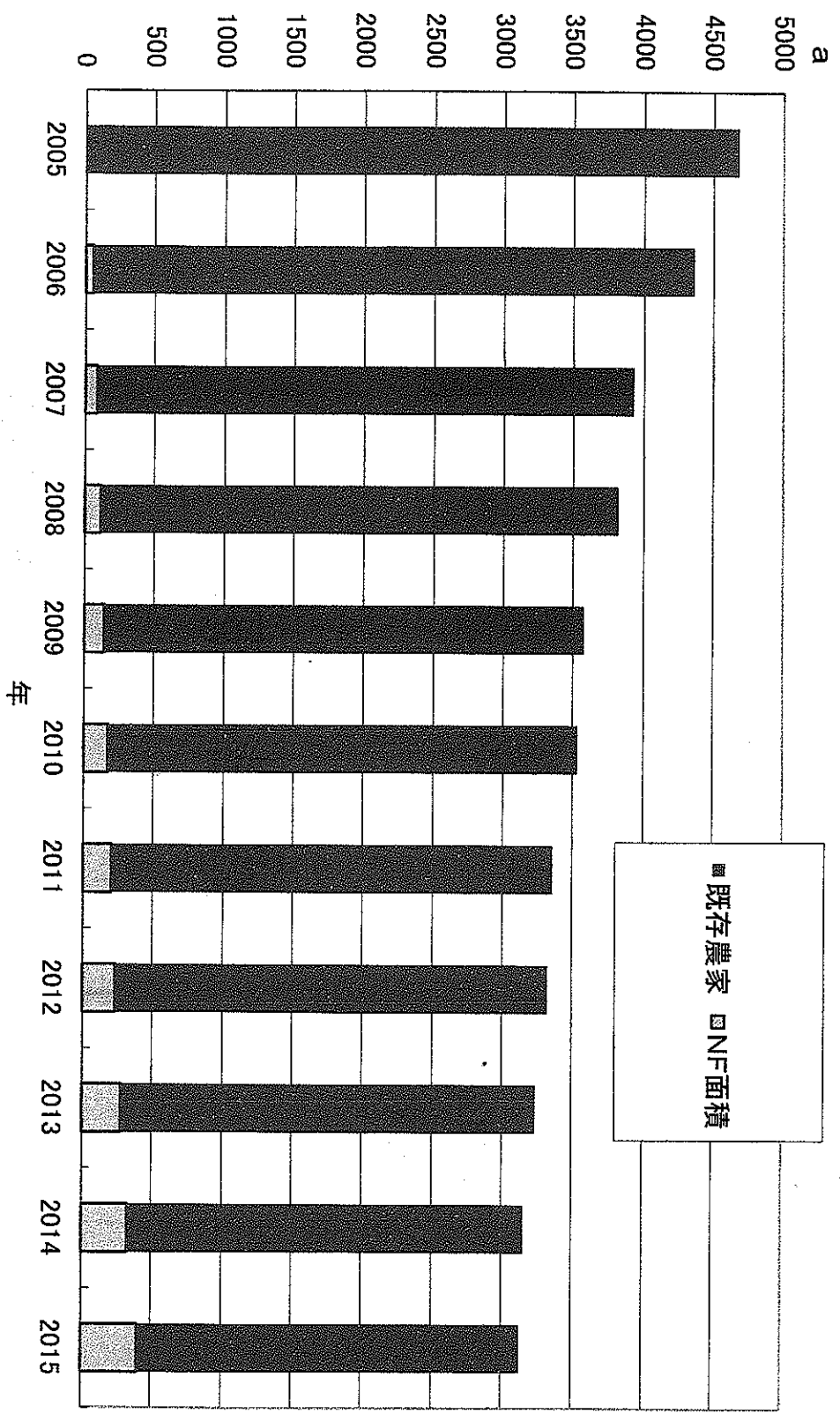
# 取組みの効果

## 苺生産者推移

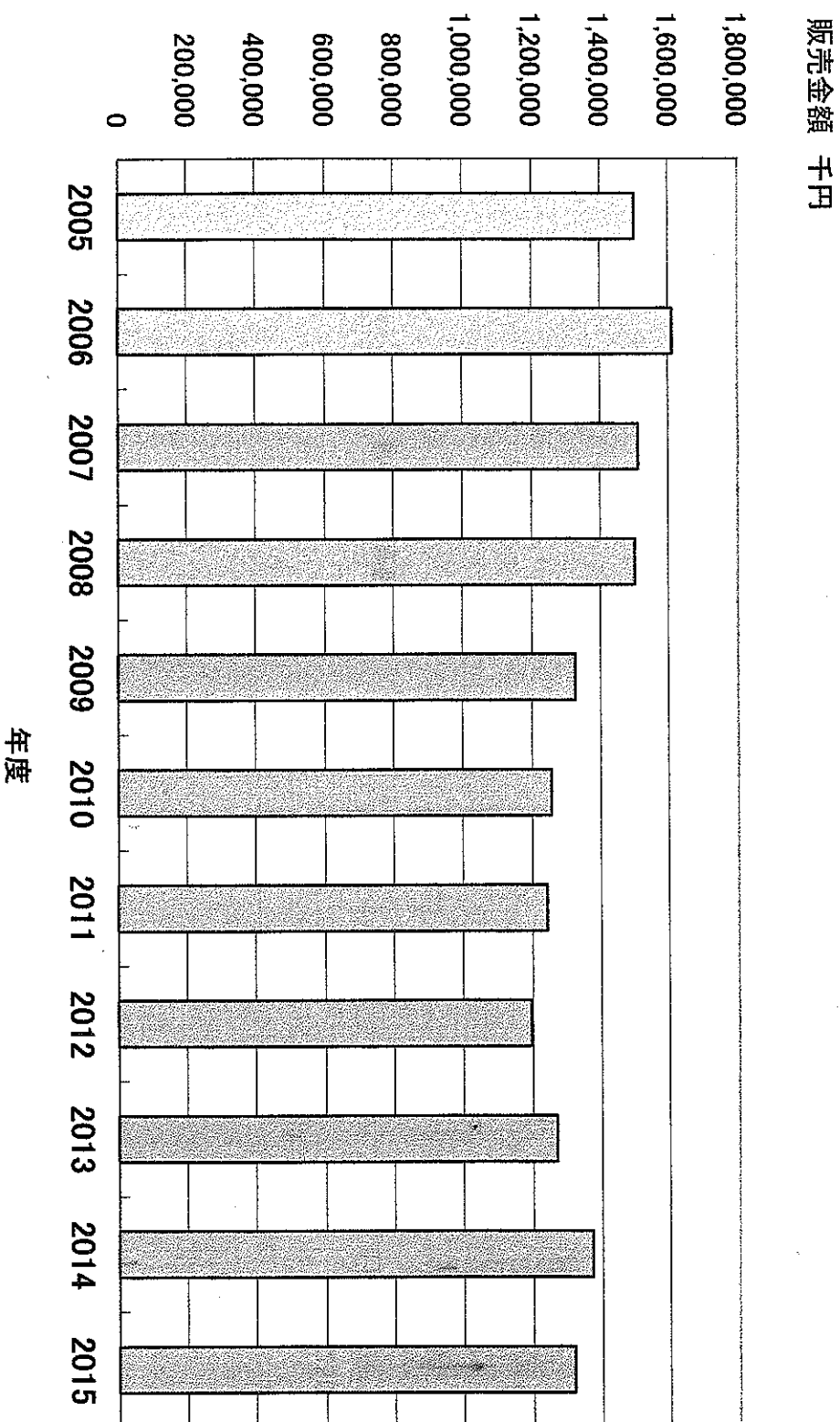


# 莓栽培面積推移

莓栽培面積推移



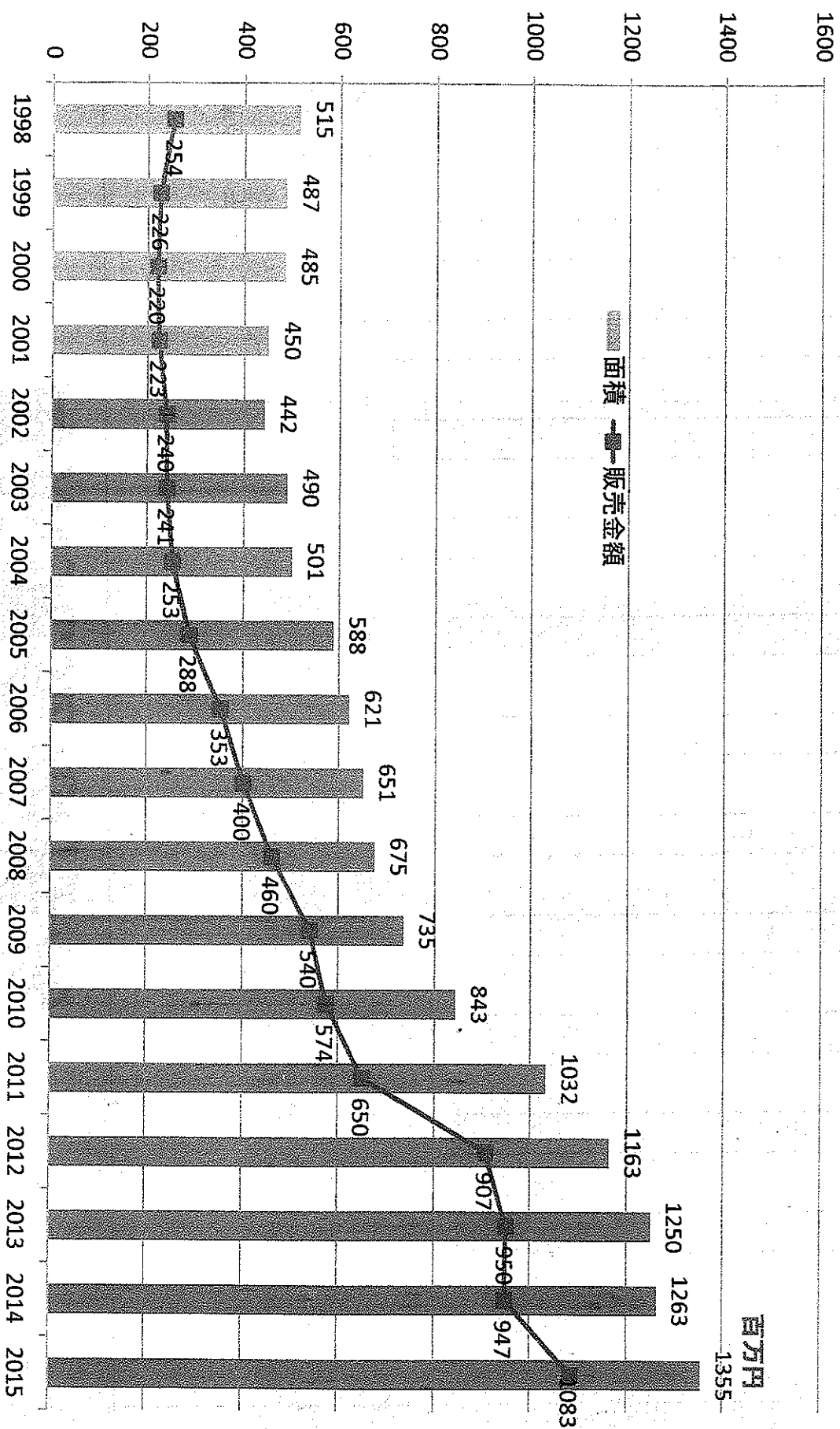
# ● ● 母販売金額推移



# 取り組みの効果

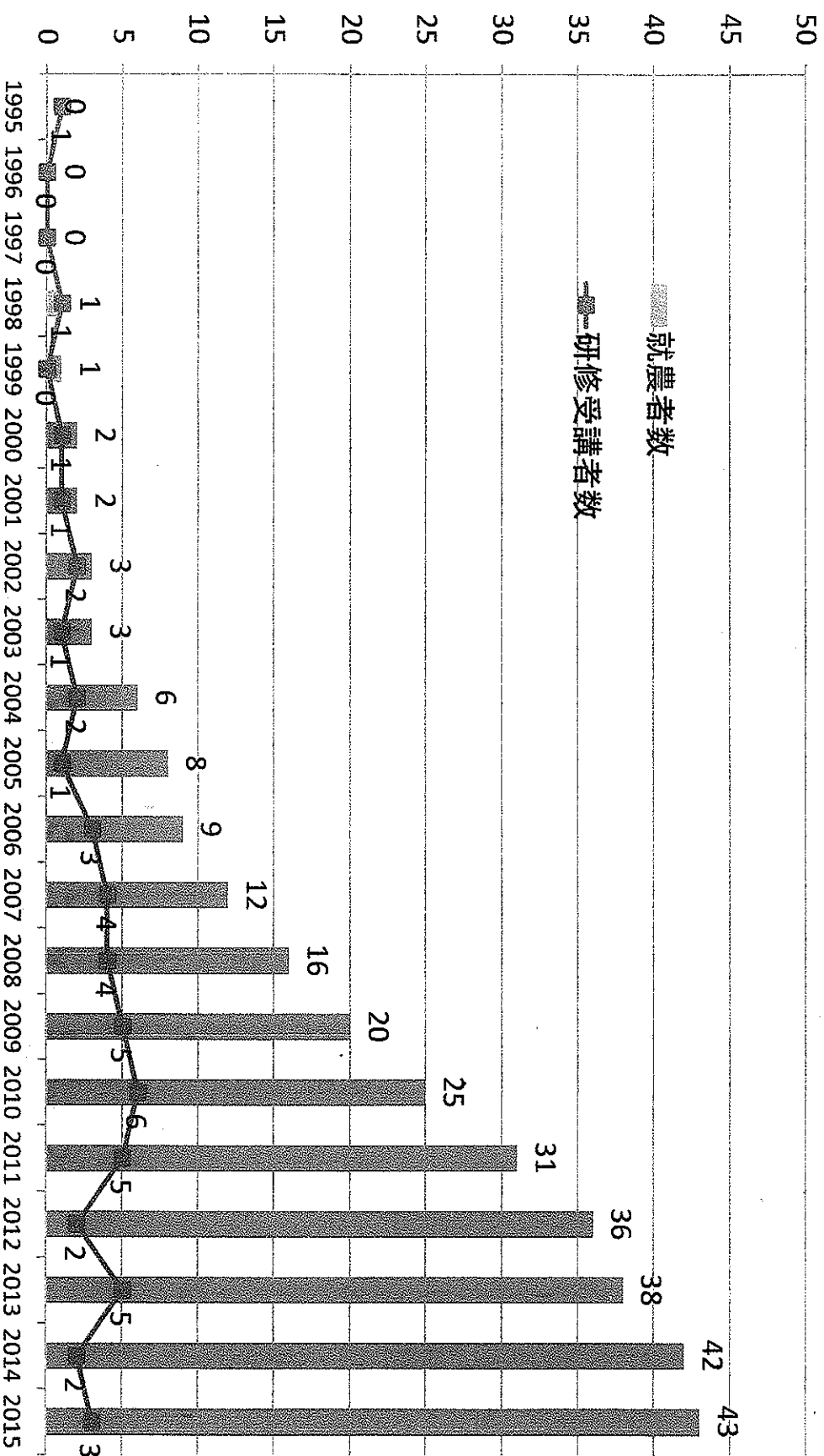
果菜販売金額 2.2億円→10.8億円

ニトマト生産者48人のうち43人NF (2015)

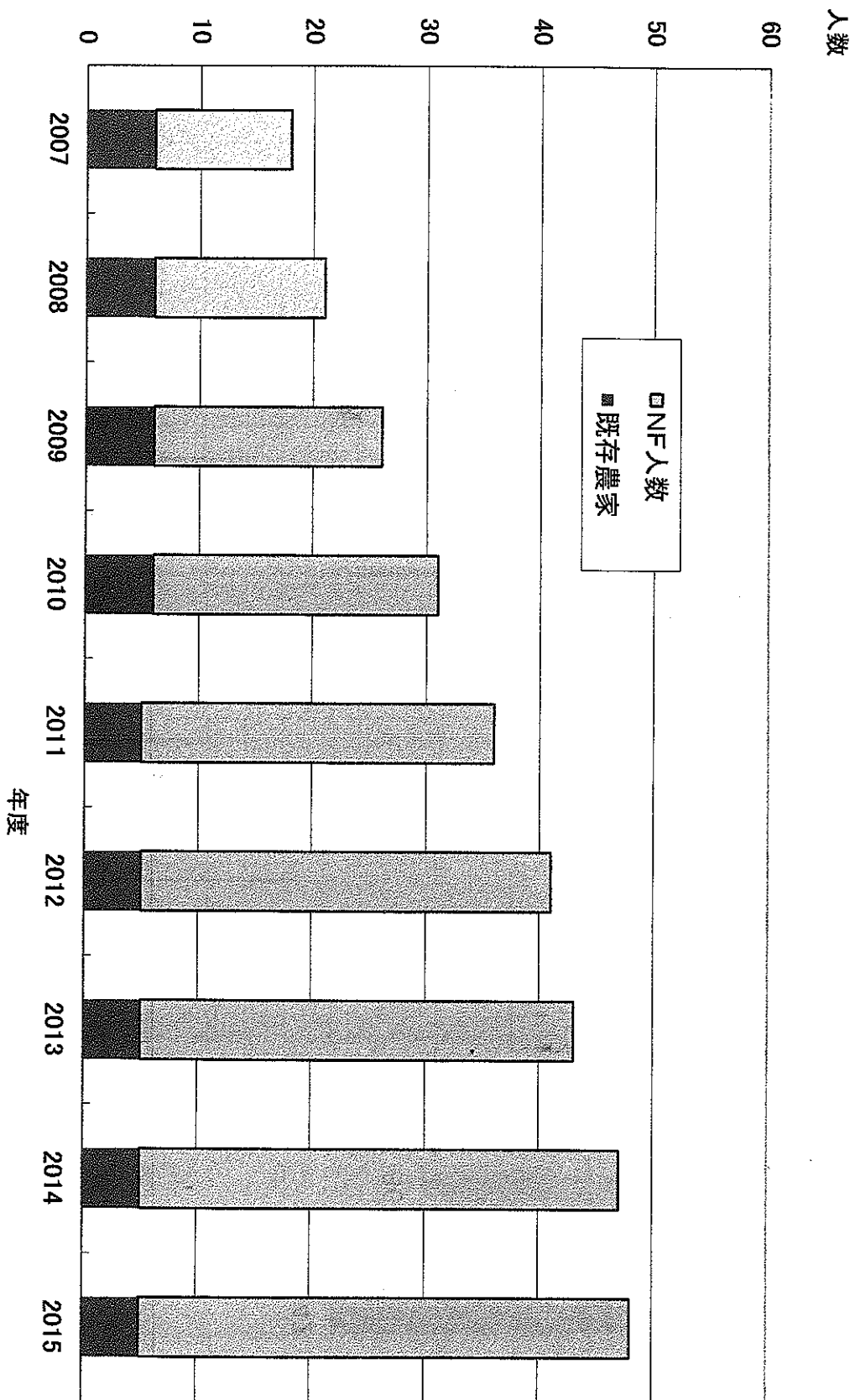




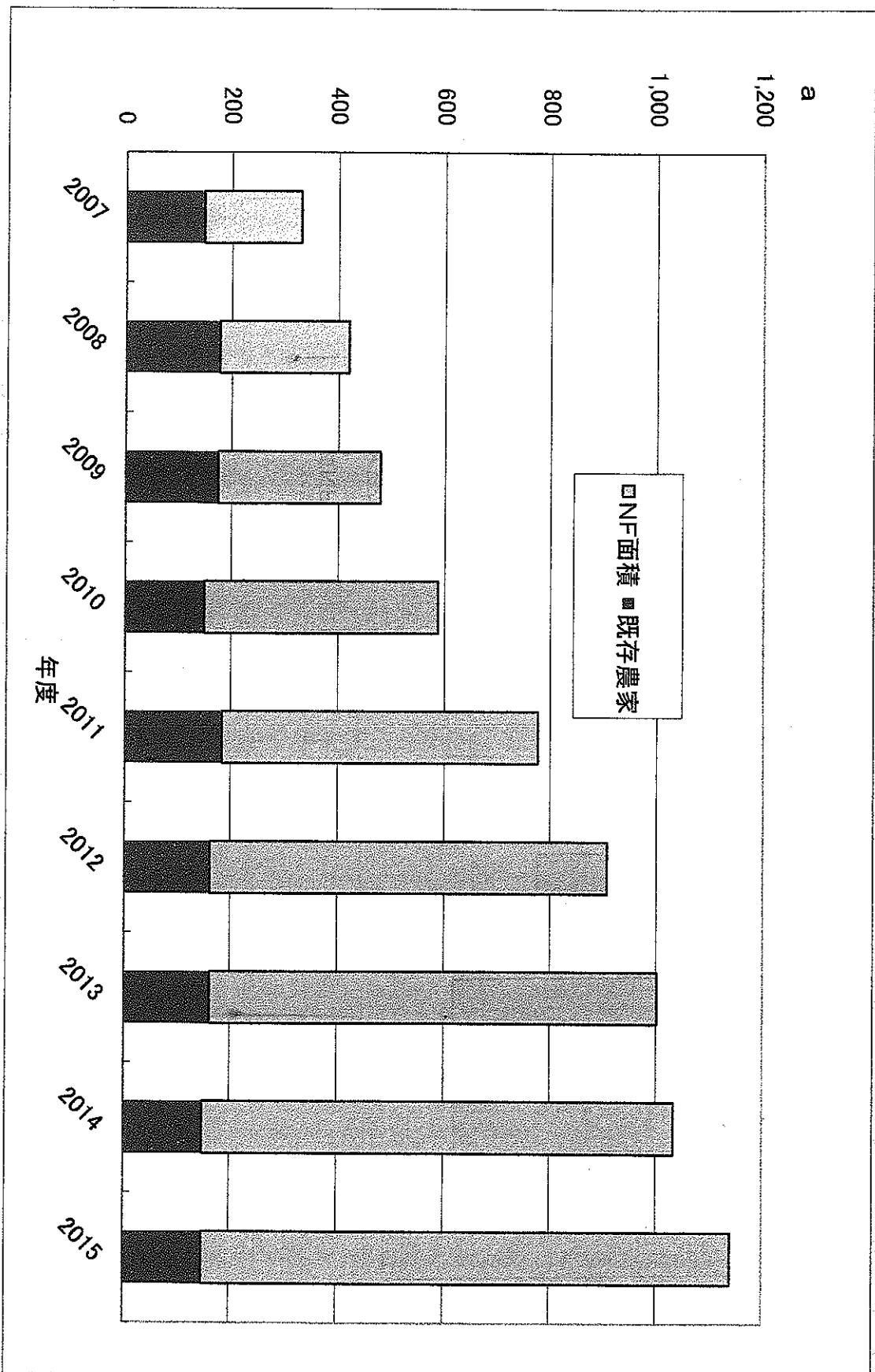
**県の就農支援事業による研修受講者数 35名**  
**伊豆の国市の就農支援事業による研修受講者数 8名**



# ミニトクト農家数推移

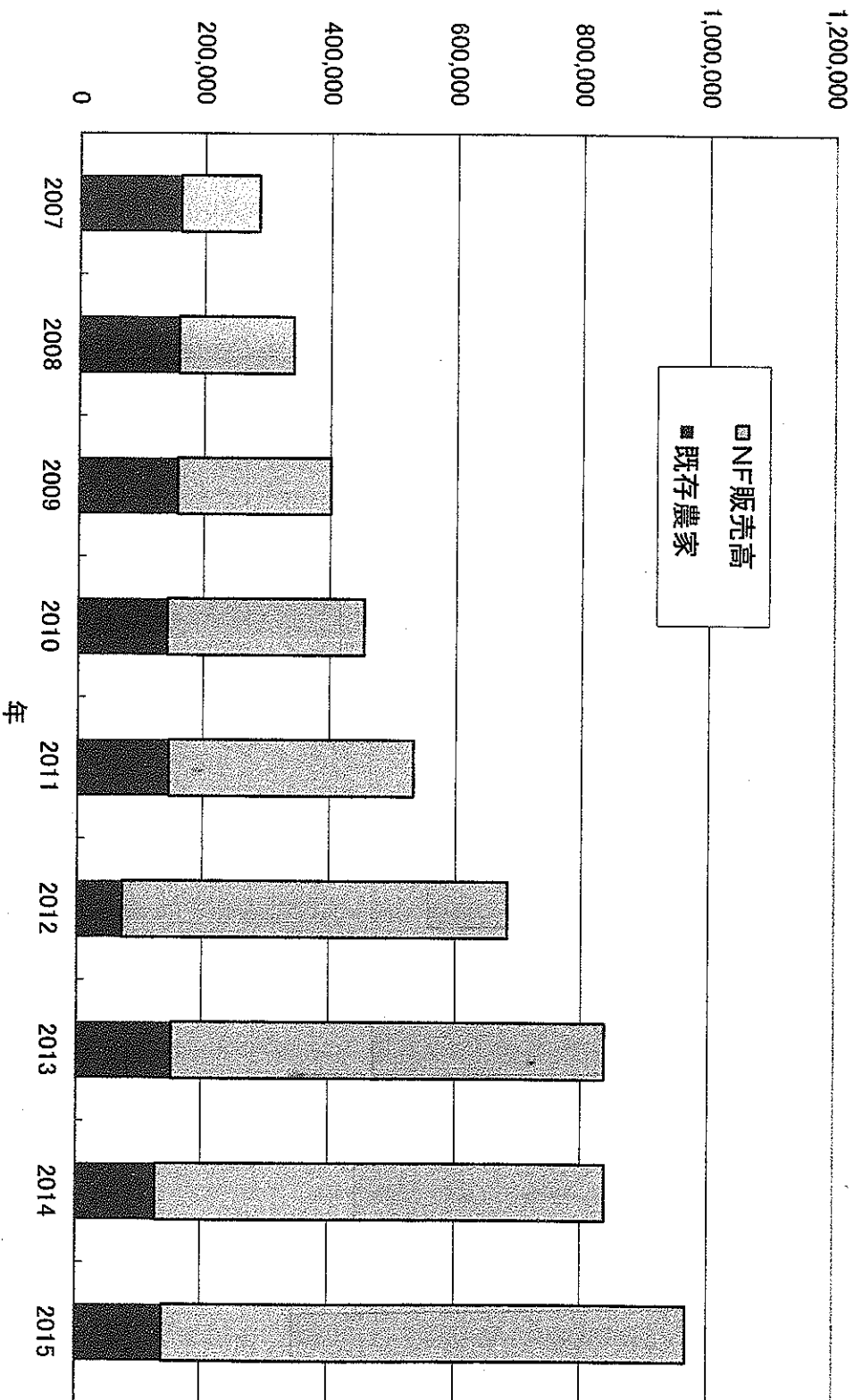


# ミニトマト栽培面積推移



# ミニトマト販売金額推移

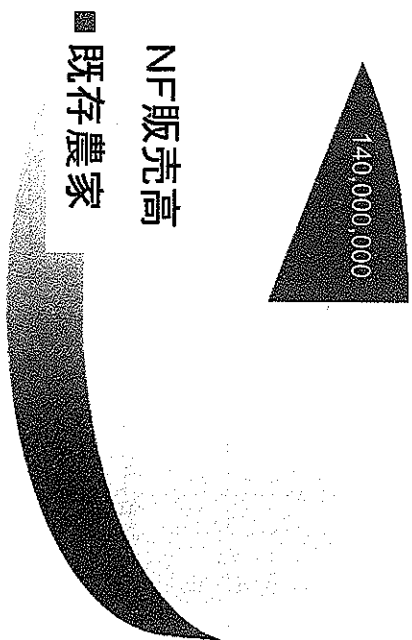
販売金額 千円



# ニューファーマー占有率(2015年度)

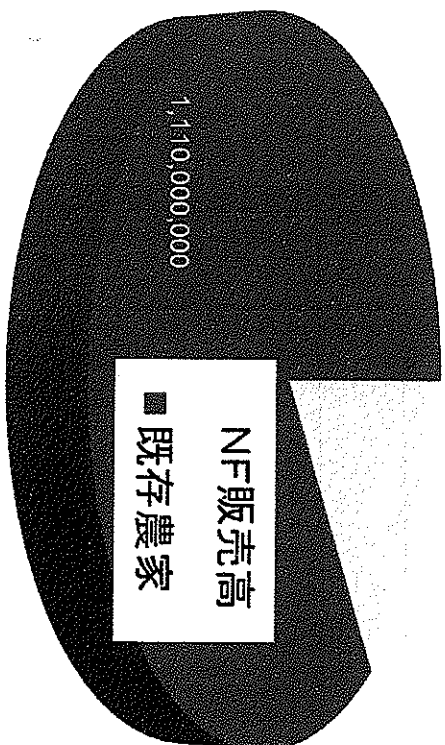
## ミニトマト

9.6億円



## 苺

13.2億円

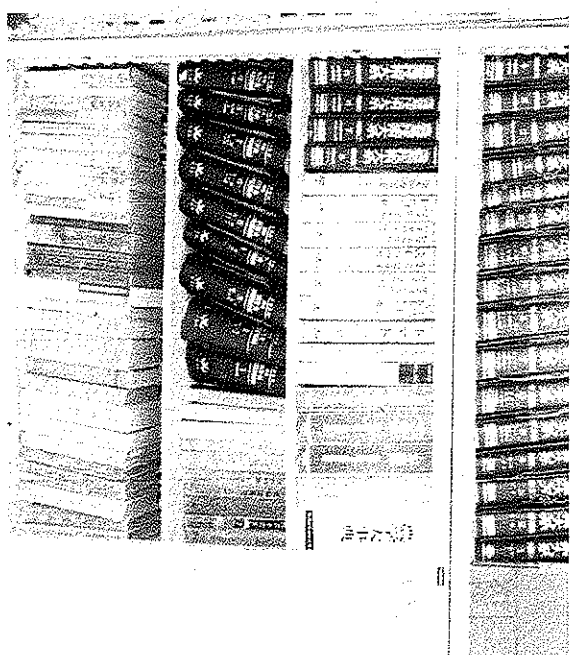




# ミニトマト栽培体系

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
概略	定植 ○ —————▶ 出荷																
主な作業内容				追肥灌水		寒冷沙で遮光	摘心	収穫終り		土壌消毒・元肥	定植	ホルモンの処理	収穫始め		追肥	暖房開始	

# 研修風景

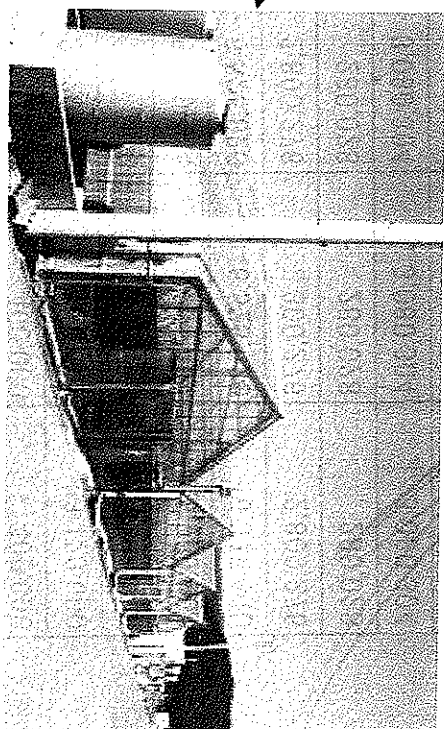
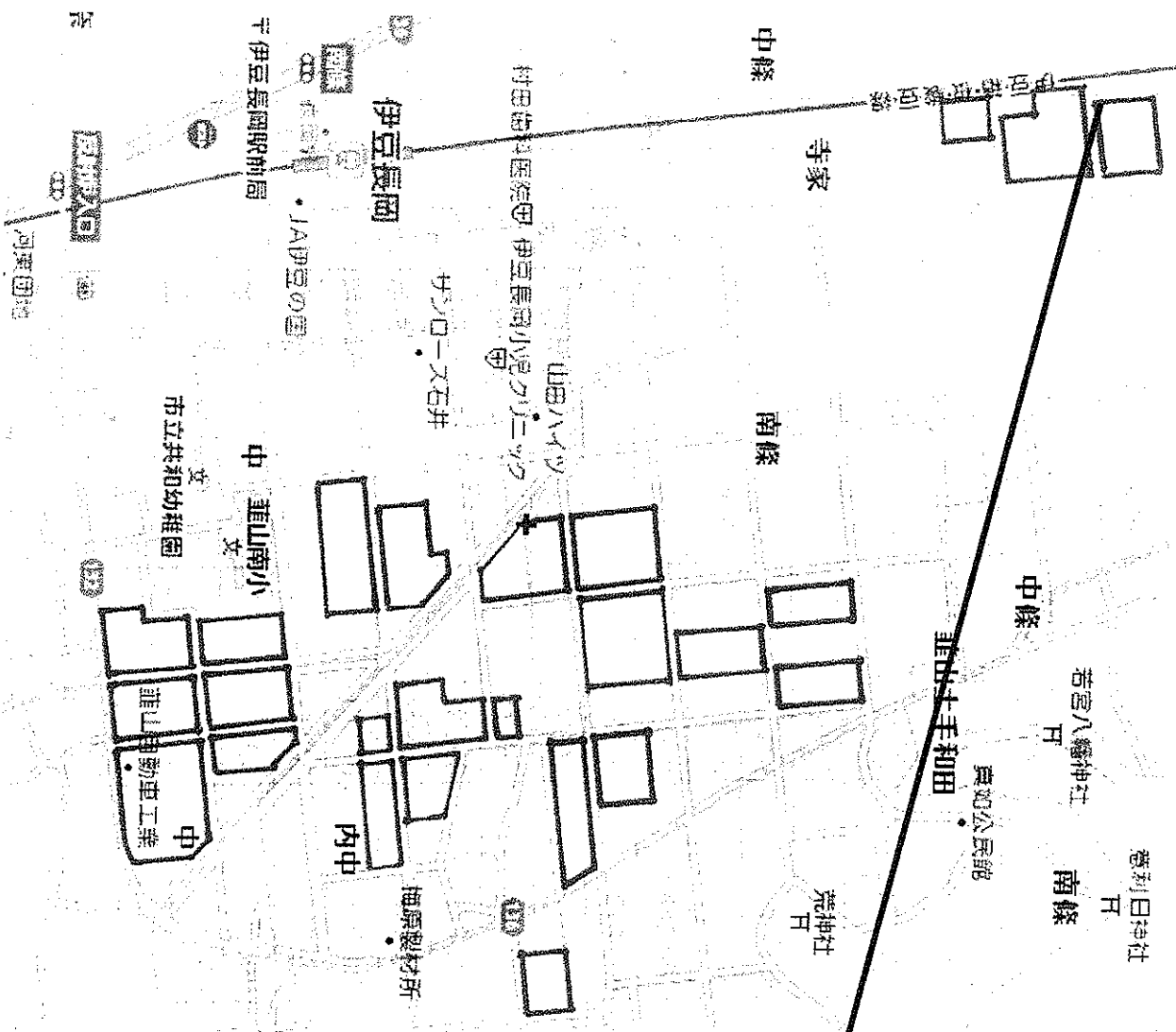




# 就農計画収支目標(ニト71a→39.5a)

		生産量(t)	15.0	24.9	49.3	49.4	50.0
		平均単価(円/kg)	600	600	600	600	600
粗収入		生産額	8,977,500	14,962,500	29,580,000	29,640,000	30,000,000
		副産物収入					
合計 A		合計 A	8,977,500	14,962,500	29,580,000	29,640,000	30,000,000
経	変動費	種苗費	535,500	392,700	800,000	800,000	800,000
		肥料費	210,420	210,420	400,000	400,000	400,000
		農薬費	260,424	260,208	385,764	385,764	385,764
		光熱動力費	1,736,700	1,736,700	2,563,700	2,563,700	2,563,700
		諸材料費	702,285	290,640	600,000	600,000	600,000
		小農具費	22,000	0	0	0	0
		賃借料金	210,000	210,000	400,000	400,000	400,000
		雇用労費	1,080,000	1,440,000	3,120,000	3,120,000	3,120,000
		その他(修繕費+支払い利子)	0	0	0	0	0
		小計	4,757,329	4,540,668	8,269,464	8,269,464	8,269,464
		出荷経費	1,979,104	3,298,506	6,525,820	6,525,820	6,575,340
		減価償却費	1,947,276	1,947,276	2,800,276	2,800,276	2,800,276
		その他	0	194,728	280,028	280,028	280,028
		計	1,947,276	2,142,004	3,080,304	3,080,304	3,080,304
合計 B	8,683,709	9,981,178	17,875,588	17,875,588	17,925,108		
家族労働費(三家計費) C		1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	
自作地・資本利子 D		0	0	0	0	0	
利潤 E=A-B-C-D		△ 906,209	3,781,322	10,504,412	10,564,412	10,874,892	
所得 C+D+E		293,791	4,981,322	11,704,412	11,764,412	12,074,892	

# ミニトヌトハウス位置図



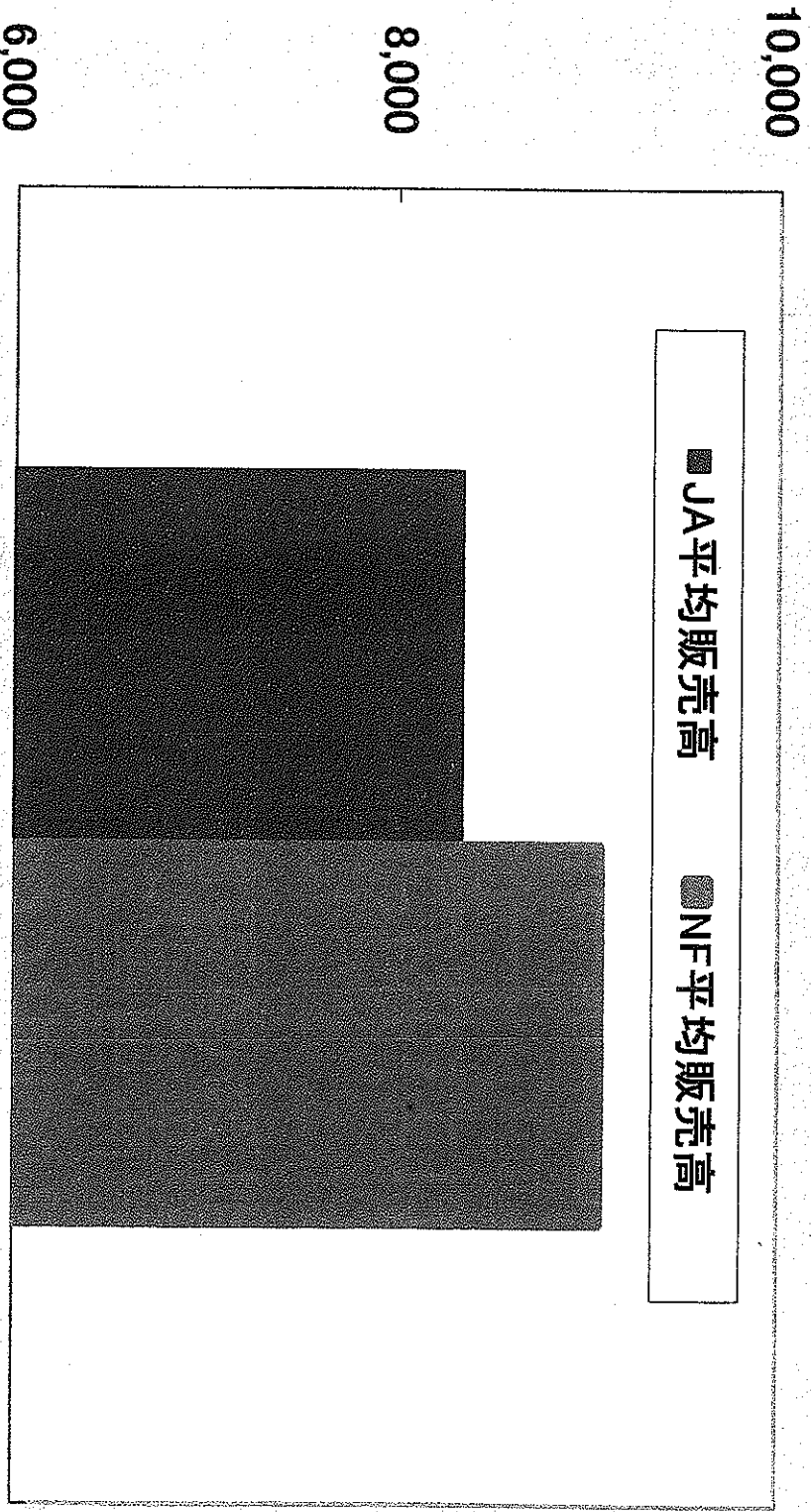
ハウス面積  
10ha

## 7. 無料職業紹介所の開設

- ① ミニトアトは土地および労働生産性が高く高収益作物であるが、多くの労働力を必要。
- ② 労働生産性が高いため雇用型農業生産が可能。主に収穫、出荷調整の軽作業が主体のため女性も可。
- ③ 2002年からJA伊豆の国に於いては無料職業紹介所を開設し農作業パートの斡旋。申し込み用紙をおき、労働可能時間を記入してもらい、農家は自分の条件に合う方と面接し、条件が合えば働いてもらう。現在ではミニトアトのパート労働者は170名に達し、地域雇用の一助となっている。

# ニューファーマーの経営状況(10a当り販売高)

(千円/10a)



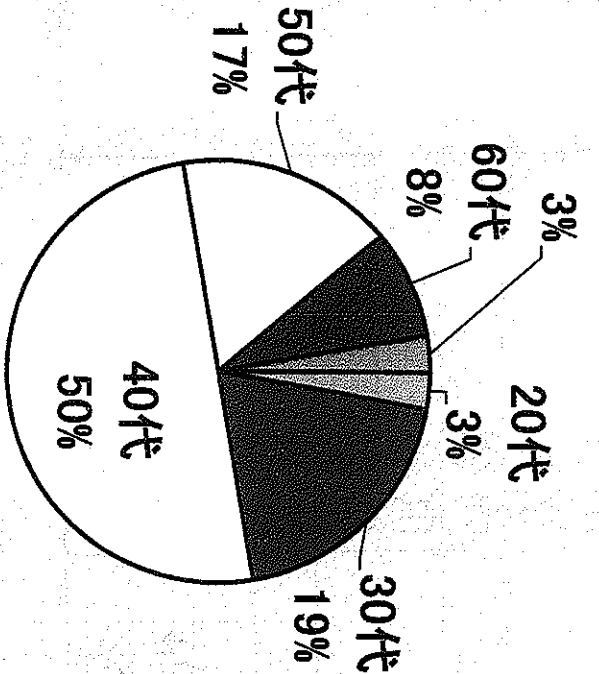
≡ニトヌト

新規就農者 出身地

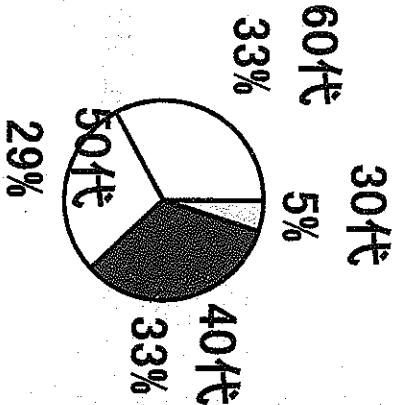
静岡県内				14
内訳	JA伊豆の国管内			3
	管外			11
静岡県外				30
内訳	東京都	東京都		6
	神奈川県	神奈川県		7
	埼玉県	埼玉県		4
	栃木	栃木		1
	群馬	群馬		1
	愛知	愛知		1
	岐阜	岐阜		1
	大阪	大阪		3
	兵庫	兵庫		1
	奈良	奈良		1
	山口	山口		1
	北海道	北海道		1
	秋田	秋田		1
	山形	山形		1
小計			30	
合計			44	



現在の年齢構成



1996年の年齢構成



# ● ● JA伊豆の国の新規就農者の就農 営農継続率が高い理由

1. 栽培技術が高い受け入れ農家の下で研修できること
2. 受入農家が農業を経営として考えられること
3. 受入農家の近くで就農していること
4. 地域として新規就農者を受け入れていること  
(行政・JA等)
5. 地域にあった経営可能な作物を作ること (適地適作)
6. 諸条件の良い土地 (日照・用排水・地力等) で就農

# 受入の課題

1. 受入農家の確保
2. 営農継続可能な作物の検討
3. 就農地の確保
4. 燃料価格の変動(海外情勢・為替相場)
5. 資材価格の値上げ
6. TPP参加の影響
7. 消費税増税



# 就農したニューフーマー

